

数多くのオンリーワンをめざして

第8回日本おみやげアカデミーグランプリ



「左」表彰者による記念撮影(下)表彰式の様子(右)はグランプリを獲得した信楽陶芸村の奥田代表と前田審査選考委員長

「日本一のおみやげ」を決める「日本おみやげアカデミーグランプリ」の第8回審査発表式が9月17日、大阪市のシェラトンホテル大阪で行われ、最高賞のグランプリを信楽陶芸村新築園道店(滋賀県)が出品した「卓上型百年のしずく(陶器製浄水器)」が受賞した。全国のおみやげ店が174品を出品。観光業界の識者らによる審査選考委員会などの審査でグランプリを含めた21の賞が決定した。

事業はJTB旅行スタンプ加盟店連盟に事務局を置く「日本おみやげアカデミー」が主催。今年度はJTBのグループ実行委員会(委員:小野寺邦夫・JTB旅行スタンプ加盟店連盟会長)が主催。観光庁が後援、日本観光振興協会、日本旅行業協会、国際観光サービスセンターなどの観光・旅行業団体、JTB、ANAなどのキャリア、JTB、JTB協定旅館ホテル連盟、観光販売事業の発展と業界のステータス向上につながる「JTB旅行スタンプ加盟店連盟」が発案。2000年に第1回を開催し、以来2年に1回のペースで開催してきた。2012年は東日本大震災の影響などから開催を見送り、翌2013年に第7回を開催。今回はインターネットの活用など運営面で改善を図ったことで、初の2年連続での開催となった。

審査は一般消費者による第1次審査と、審査選考委員会(左)による記念撮影(下)表彰式の様子(右)はグランプリを獲得した信楽陶芸村の奥田代表と前田審査選考委員長



最高賞は「卓上型百年のしずく」

174品がエントリー 合計21の賞が決定

審査選考委員会(敬称略)委員長 前田勇(立教大学名誉教授)▽委員 今井敏行(株式会社JTB代表取締役社長)、浦野英示(公益社団法人日本観光振興協会常務理事)、小野寺邦夫(JTB旅行スタンプ加盟店連盟会長)、興津義典(一般社団法人日本旅館協会の代表理事)、山一夫(観光庁観光産業課旅行安全対策推進室長)

「審査選考委員会」(敬称略)委員長 前田勇(立教大学名誉教授)▽委員 今井敏行(株式会社JTB代表取締役社長)、浦野英示(公益社団法人日本観光振興協会常務理事)、小野寺邦夫(JTB旅行スタンプ加盟店連盟会長)、興津義典(一般社団法人日本旅館協会の代表理事)、山一夫(観光庁観光産業課旅行安全対策推進室長)

「審査選考委員会」(敬称略)委員長 前田勇(立教大学名誉教授)▽委員 今井敏行(株式会社JTB代表取締役社長)、浦野英示(公益社団法人日本観光振興協会常務理事)、小野寺邦夫(JTB旅行スタンプ加盟店連盟会長)、興津義典(一般社団法人日本旅館協会の代表理事)、山一夫(観光庁観光産業課旅行安全対策推進室長)

第8回日本おみやげアカデミーグランプリ 各賞受賞品一覧

賞の種類	商品名	店名
グランプリ	「卓上型百年のしずく」(陶器製浄水器)	(滋賀) 信楽陶芸村 新築園道店
金賞		
水産加工品部門	ぶちかまパーティーBOX	(神奈川県) 小田原鈴廣 風祭店
加工食品部門	在来津軽「清水森ナンバ」一升漬	(青森) 津軽藩ねぶた村
農産加工品部門	私 塩なんです	(福井) 潮騒の館 やし楼
飲料部門	やまがた 飯豊町 こくわワイン	(山形) めざみの里観光物産館
民芸品・工芸品部門	屋久杉 千年の森のふくろうルーベ	(鹿児島) 屋久島観光センター
菓子部門	雪吊り 兼六園物語	(石川) 寄観亭
ヘルスケア関連商品部門	南飛騨の木工品クツペラ クリアール	(岐阜) 舞台時観光センター
審査員特別賞	天城山隧道ロール	(静岡) 小室山レストハウス
審査員特別賞	コースター&カップ麺キャップ	(石川) 九谷満月
審査員特別賞	お漬けモン	(熊本) 草千里レストハウス
外国からのお客様に買っていただきたい賞	フリーカップ「花」ペア 黒/朱	(長野) 山加萩村漆器店
第二次審査投票第1位	つぶわさび	(北海道) 海鮮問屋 海商
旅先でお土産として買ってみたい賞		
北海道エリア	とろ〜り贅沢プリン	(北海道) 北の森ガーデン
東北エリア	ほたて干し貝柱 (80g×2袋)	(青森) 北彩市場 下北名産センター
関東エリア	酒六選セット	(新潟) 酒蔵見学 越後ゆきくら館
中部エリア	北前一本鮓 炙り鱒	(富山) 大辻や
関西エリア	丹波篠山 黒豆	(京都) 松井物産
中国・四国エリア	境港 海鮮3種セット	(鳥取) 大漁市場なから
九州エリア	日向夏ドレッシング (200g)	(宮崎) はまぐり墓石の里
沖縄エリア	紅いも生タルト<6個入>	(沖縄) 御菓子御殿 恩納店



グランプリを獲得した「卓上型百年のしずく」

JTB旅行スタンプ加盟店連盟特集 57面



前田審査選考委員長(立教大学名誉教授)



今回、運営委員長に新任した松井道昭氏(連盟副会長)



小野寺実行委員長(JTB旅行スタンプ加盟店連盟会長)

神話と伝説のふる里高千穂

株式会社 千穂の家

おみやげとお食事を通して 郷土の文化を伝えることが 私どもの使命です。

昭和30年創業

＜元祖 流しそうめん＞

二百有余年の古民家でのお食事と神楽観賞

＜ふるりの茶屋 神楽宿＞

日本一の宮崎牛「高千穂バーガー」等が人気

＜ふる里茶房 石の蔵＞

TEL: 0982-72-2115

HP: <http://www.takachiho.gr.jp>

日本三景 天橋立

株式会社 松井物産

代表取締役社長 松井道昭

京都府津市宇大橋48番地

TEL: 0772-270028

岐阜県下町・郡上八幡...

時の半が刻んだ大自然の造形美

大滝鍾乳洞

〒501-4205 岐阜県郡上市八幡町安久田2298

Tel 0575(67)1331

Fax 0575(65)3950

コンビニで買えるミニ旅行発売中!

郡上八幡満喫プラン(様案)

東海北陸道美濃IC入口 美濃和紙と関の刃物の専門店

美濃関物産館

FaxTel 岐阜 0575(65)3950

東京 03(5715)3512

大阪 06(6514)4770

代表取締役 河合 徹

代表取締役 鈴木 梯介

神奈川 小田原市 風祭 二四五

本社 0465-1141-11

風祭店 0465-1141-31

http://www.kamaboko.com

世界遺産 平泉

中尊寺門前 平泉レストハウス

レストラン・ワードコート・平泉文化史・ジョウベンコーナー

東北自動車道前沢サービスエリア下り線・東天沼湯野平泉土産センター

株式会社 平泉観光レストセンター

<http://hiraizumi2011.jp/>

TEL 0191-46-2011

World Heritage HIRAIZUMI 2011

みやげ業界の地位向上、プラライド回復へ

JTB旅行スタンプ 3大事業

JTB旅行スタンプ加盟店連盟は「日本おみやげアカデミーグランプリ」みやげ塾「みやげみらい委員会」を連盟の3大事業として推進している。みやげ業界の「物づくりに人づくりに未来への」を担うもので、みやげ業界の活性化のみならず、業界で働く人の地位向上、プラライドの回復を目指している。

日本おみやげアカデミーグランプリは「ここへ行ってみたいおみやげ」をテーマに、消費者の批判に耐えることも、不況や団体旅行の減少でみやげ品が売れなくなった現状を踏まえ、「オリジナリティあふれるオリジナル商品を開発することが人々の期待に応え、店の売り上げ拡大、みやげ業界の活性化にもつながる」と、JTB旅行スタンプ加盟店連盟内に設置された「アカデミー21委員会」(発足の解任)が発案。2000



エントリー商品を並べ、試食・試飲も行った第2次審査(3点とも)

年に第1回が開催され、以来ほぼ毎年一度の割合で開催されている。主催は連盟内に事務局を置く日本おみやげアカデミーグランプリ実行委員会。運営は同運営委員会が担っている。2004年の第3回から国土交通省(現在は観光庁)が後援。日本を代表するみやげ業界の一大イベントとして定着している。

会(前田勇義委員長)が、地域性やデザイン、ネーミング、味など、さまざまな観点から選定している。また、一般消費者からの投票も募り、人気上位の商品を表

彰している。一般からの投票については、2010年の第6回まで、旅の総合イベント

「旅フェア」会場に全商品を表示し、投票を募っていたが、2013年の第7回からJTB

Bのホームページを活用した投票に変更。イベントへの来場者にとどまらず、全国各地の消費者が投票できるようになった。

賞の内容も前回の第7回から大幅に変更。最高賞のグランプリは「食品部門」「非食品部門」各1計2点から、部門に関わらず1点のみ。分けても7つに細分化し、それぞれ最も優秀な商品(金賞)とした。

外国人観光客が増えている状況を受け、第3回から「インバウンド賞」(現在は外国からのお客様に買っていただいたアイテムで賞も設定している。グランプリを筆頭とした受賞商品は各地のメディアで取り上げられるなどPR効果も大きく、店の販売促進にもつながっている。連盟でも賞や受賞商品のPRにさらに力を入れる方針だ。

第1回(食品部門) 讃岐巻物うどん (香川県・ナカノヤ)

第2回(食品部門) 海底野郎酒 (沖縄県・琉宮城蝶々園)

第3回(食品部門) きりたんぼ体験日記 (秋田県・田園市場 秋田美人)

第4回(食品部門) 釜子焼酎サバー (栃木県・釜子焼酎共販センター)

第5回(食品部門) 釜子焼酎「あわせ」萩焼きのサライトル (山口県・観光会館安富屋)

第6回(食品部門) キャンドルスタンド ウサギ (香川県・ナカノヤ琴平)

第7回 さぬき紅白巻物うどん (香川県・ナカノヤ琴平)

第8回 卓上型百年のしずく 陶器製浄水器 (滋賀県・信楽陶芸村 新築 国道店)

消費者の期待に応え、販売増も

商品の中から、観光業界の有識者で組織する審査選考委員

優れたみやげ品を選定。最も優れた商品を「グランプリ」

として選定している。また、一般消費者からの投票も募り、人気上位の商品を表

彰している。一般からの投票については、2010年の第6回まで、旅の総合イベント

「旅フェア」会場に全商品を表示し、投票を募っていたが、2013年の第7回からJTB

Bのホームページを活用した投票に変更。イベントへの来場者にとどまらず、全国各地の消費者が投票できるようになった。

賞の内容も前回の第7回から大幅に変更。最高賞のグランプリは「食品部門」「非食品部門」各1計2点から、部門に関わらず1点のみ。分けても7つに細分化し、それぞれ最も優秀な商品(金賞)とした。

外国人観光客が増えている状況を受け、第3回から「インバウンド賞」(現在は外国からのお客様に買っていただいたアイテムで賞も設定している。グランプリを筆頭とした受賞商品は各地のメディアで取り上げられるなどPR効果も大きく、店の販売促進にもつながっている。連盟でも賞や受賞商品のPRにさらに力を入れる方針だ。

第1回(非食品部門) 北の聖少女 すずらん (北海道・北の森ガーデン)

第2回(非食品部門) やくしま森の癒し箱 (鹿児島県・屋久島観光センター)

第3回(食品部門) 釜子焼酎「あわせ」萩焼きのサライトル (山口県・観光会館安富屋)

日本おみやげアカデミーグランプリ



第8回日本おみやげアカデミーグランプリの受賞商品が9月25、28日に開かれた「トリズムEXPOジャパン」(東京都江東区、東京ビッグサイト)会場に展示された。JTBブースの一角に、グランプリを獲得した「卓上型百年のしずく」など8商品が展示。旅に出たら、その地域ならではのおみやげ品を、おみやげ品として楽しむ。また、おみやげ品を、おみやげ品として楽しむ。また、おみやげ品を、おみやげ品として楽しむ。

第1回(食品部門) 讃岐巻物うどん (香川県・ナカノヤ)

第2回(食品部門) 海底野郎酒 (沖縄県・琉宮城蝶々園)

第3回(食品部門) きりたんぼ体験日記 (秋田県・田園市場 秋田美人)

第4回(食品部門) 釜子焼酎サバー (栃木県・釜子焼酎共販センター)

第5回(食品部門) 釜子焼酎「あわせ」萩焼きのサライトル (山口県・観光会館安富屋)

第6回(食品部門) キャンドルスタンド ウサギ (香川県・ナカノヤ琴平)

第7回 さぬき紅白巻物うどん (香川県・ナカノヤ琴平)

みやげ塾

業界人の人材育成塾 20回で延べ398人が受講

みやげ塾は、「業界の将来は優秀な人材の量で決まる」という連盟の調査研究委員会(発展的解消)の答申を受けて、みやげ業界の若手経営者、幹部社員らの育成講座として1999年に発足した。現在、年1回のペースで、JTBの研修施設「フォレスト」(東京都多摩市)を会場に、全国の連盟支部から推薦のあった約20、30人を対象に、2泊3日の日程で行っている。



今年第20回みやげ塾。最終日に参加者が3日間の研修の成果を発表した



発足当時(2007年)のみやげみらい委員会。正面右から2番目はあいさつする河合委員長

連盟の発展へ提言 個人・外客誘致や組織のあり方模索

みやげみらい委員会(河合徹委員長)は、連盟の発展に向けた提言を行う連盟本部の諮問機関として2007年に若手会員を中心に発足した。当初は「交流文化事業」「IT電子商取引」の二つのテーマをそれぞれのチームに分かれて議論してきたが、現在は事業や組織など幅広い観点から連盟の「あるべき姿」を模索している。「レジャーチケットプラン」(お買物

券付き宿泊プラン)などJTBの着地型プランについて、「みやげ店への団体客の確保と新たな個人客の誘致を進める」との観点から、会社とともに販売拡大に向けた議論を進めている。また拡大するインバウンドに対応するため、外国人旅行者向け免税事業者登録やWiFi-FIの整備促進に向けた研究を進めている。新しい免税制度や2020年の東京オリンピック・パリンピック開催を見据え、委員会内にインバウンドに特化した新たな部署も発足させる。組織については、みやげ店以外の業態との連携も視野に入れた連盟の新たな名称や総会開催のあり方についても検討を進める。



受賞商品を決めた審査選考委員会による第2次審査

者同士がディスカッションを行い、業界に必要な知識を吸収するとともに、地域や組織のリーダーとして必要な感性を育んだり、同業者同士の人脈を広げ、連帯意識を高めることを狙っている。講師は塾長を務める連盟の



今年第20回みやげ塾。最終日に参加者が3日間の研修の成果を発表した



発足当時(2007年)のみやげみらい委員会。正面右から2番目はあいさつする河合委員長

みやげみらい委員会

みやげみらい委員会(河合徹委員長)は、連盟の発展に向けた提言を行う連盟本部の諮問機関として2007年に若手会員を中心に発足した。当初は「交流文化事業」「IT電子商取引」の二つのテーマをそれぞれのチームに分かれて議論してきたが、現在は事業や組織など幅広い観点から連盟の「あるべき姿」を模索している。「レジャーチケットプラン」(お買物

券付き宿泊プラン)などJTBの着地型プランについて、「みやげ店への団体客の確保と新たな個人客の誘致を進める」との観点から、会社とともに販売拡大に向けた議論を進めている。また拡大するインバウンドに対応するため、外国人旅行者向け免税事業者登録やWiFi-FIの整備促進に向けた研究を進めている。新しい免税制度や2020年の東京オリンピック・パリンピック開催を見据え、委員会内にインバウンドに特化した新たな部署も発足させる。組織については、みやげ店以外の業態との連携も視野に入れた連盟の新たな名称や総会開催のあり方についても検討を進める。

